

## 糖尿病患者における低値の収縮期血圧値は心臓血管イベントリスク低下と関連

最近の高血圧ガイドラインでは、2型糖尿病患者の降圧目標は130mmHgから140mmHgへと引き上げられた。その背景には、低値目標を支持する決定的な無作為試験がないことや、観察研究により血圧値と合併症にJカーブの関連性が示唆されていることがある。本研究では、2型糖尿病で心臓血管病の既往のない患者について、現行の収縮期血圧推奨値（140mmHg以下）のリスクと、血圧低値のリスクを比較検討した。スウェーデンにおいて、2006～2012年の全国的な臨床レジストリを用いた集団ベースコホート試験を実施した。平均追跡期間は5.0年であった。2型糖尿病歴1年以上、75歳以下の心臓血管病またはその他の重大疾患の既往がない187,106人が対象となった。試験開始時の収縮期血圧値群ごとに、心臓血管イベントおよび全死亡について評価した。ハザード比は共変量（臨床的特性および薬物処方データ）で補正して算出した。その結果、収縮期血圧最小値（110～119mmHg）群は参照値（130～139mmHg）群と比較して、非致死性急性心筋梗塞（補正後ハザード比：0.76、 $p=0.003$ ）、全急性心筋梗塞（同：0.85、 $p=0.04$ ）、非致死性心臓血管病（同：0.82、 $p=0.002$ ）、全心臓血管病（同：0.88、 $p=0.04$ ）、非致死性冠動脈疾患（同：0.88、 $p=0.03$ ）のリスクはいずれも有意に低かった。心不全と全死亡を除き、収縮期血圧値と各転帰との間にJカーブの関連はみられなかった。

したがって、2型糖尿病患者において、現行の推奨値よりも低値の収縮期血圧値は心臓血管イベントの有意なリスク低下と関連することが示された。これまでの研究で示された血圧低値と死亡増大の関連は、降圧治療によるものでなく、合併症に起因するものと考えられる。

出典：British Medical Journal(Clinical research ed.). 2016; 354: i4070